

平成28年度シラバス

東京大学全学研究科等横断型教育プログラム

Japan-Asian Studies Program Academic Year 2016 - 2017

「日本・アジア学」教育プログラムは、
文系・理系を問わず、
激動するアジアを広く、
そして深く知ることができる
カリキュラムです。

日本・アジア学

アジアをつなぐ旅に出よう

参加資格
Eligibility

東京大学の大学院生
(所属研究科・教育部は問いません)
All graduate students of the University of Tokyo
(Regardless of graduate school or educational department)

修了要件
Completion
criteria

12単位
(言語科目群は4単位まで)
12 credits
(No more than four from language-related disciplines)

修了証
Certificate
of Program
Completion

東京大学が授与する
正式な修了証
Certificate formally awarded
by the University of Tokyo

Introduction



「日本・アジア学」教育プログラムとは

日本を含むアジアについての教育活動を、部局と分野を超えて新たに体系化・総合化したもので、意欲ある大学院学生のみなさんが、所属する研究科・教育部局固有の教育カリキュラムに加えて履修し、修了するものです。

本プログラムは、総合科目群と言語科目群に大別されます。総合科目群は、本プログラムの中核をなすもので、分野横断・部局横断のカリキュラムを通じて、日本を含むアジアについて理解を深めるものです。各研究科・教育部において正規課程の科目として実施される授業がこれに該当します。総論、社会・文化論、社会技術論、自然環境論、健康論、情報論、特論からなります。また言語科目群は、教養学部あるいは文学部の学部後期課程(3-4年生)で開講される外国語科目のうち日本・アジアと関わるものを、意欲ある大学院学生が履修することを奨励するものです。

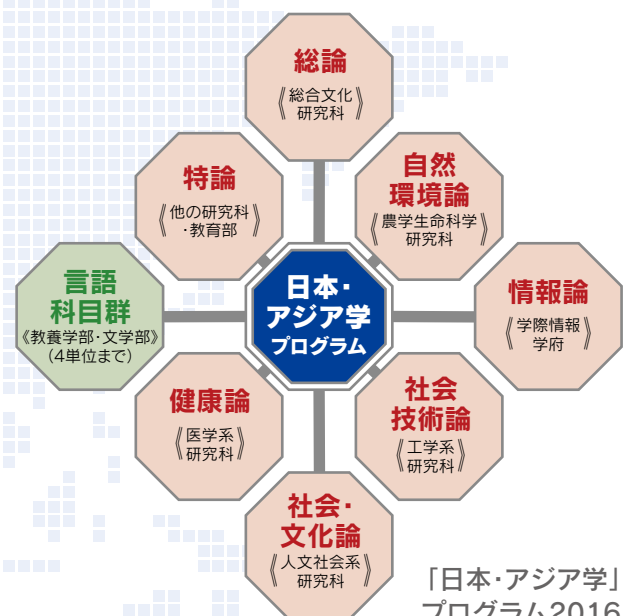
総合科目群のみから、あるいは言語科目群と総合科目群の合計で12単位以上を取得した場合に、プログラムを修了したと認定し、修了証を発行します。ただし、言語科目群から取得した単位を、修了要件の一部とする場合には、4単位を上限とします。

Japan-Asian Studies Program

The Japan-Asian Studies Program is an educational undertaking that represents a new systemization and a newly comprehensive approach to Asia, including Japan, that transcends departments and fields. It can be participated in and completed by all graduate students interested in it as a supplement to the specific educational curriculum of whatever graduate school or faculty department they belong to.

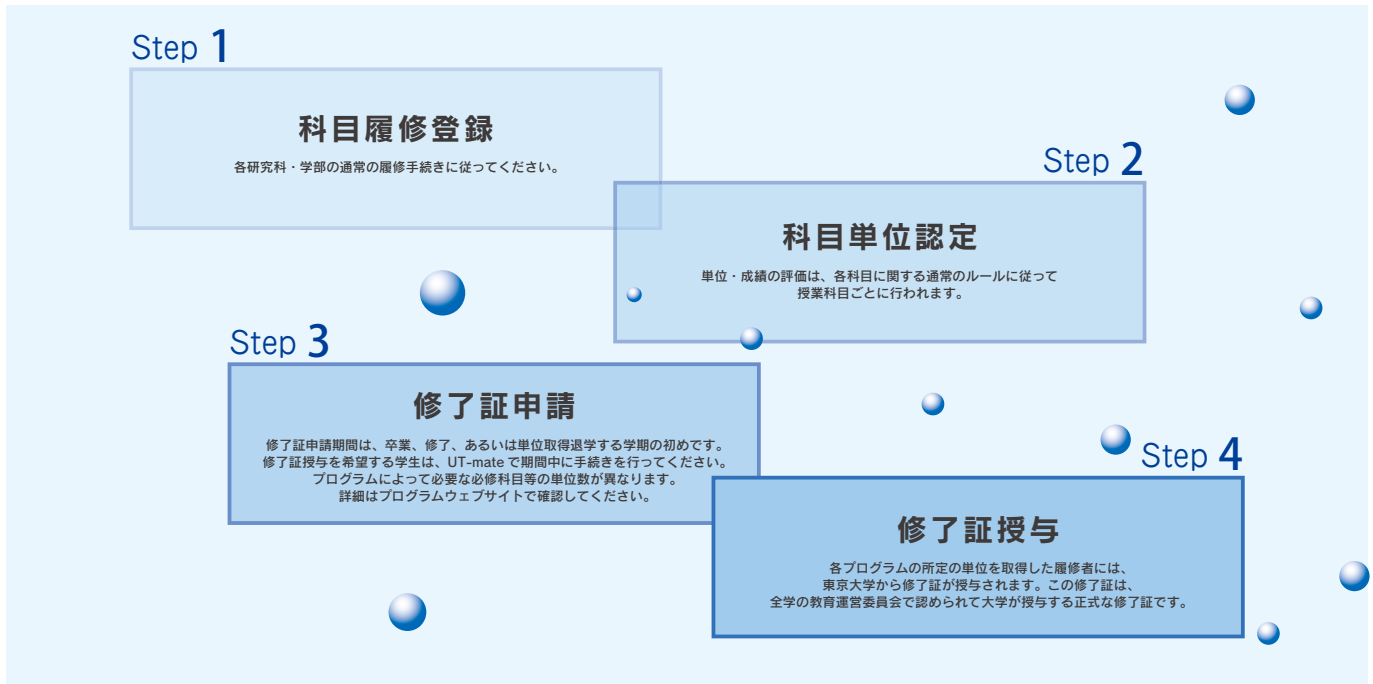
The program can be broadly divided into general and language-related subjects. The general subjects form the core of the program, and offer a deeper understanding of Asia, including Japan, by way of an interdisciplinary, interdepartmental curriculum. Classes held by each graduate school and faculty as part of its standard curriculum come under the program, which comprises Liberal Arts and Sciences, Society and Culture, Social Technology, Natural Environment, Health Sciences, Information Sciences, and Advanced Studies. Furthermore, when it comes to language-related disciplines, students who wish to do so are encouraged to take the Asian foreign language courses offered in the Undergraduate course senior division (third and fourth year) curriculum of the College of Arts and Sciences and Faculty of Letters.

In the case of a total of 12 or more credits having been gained from general theory-related disciplines only or from language-related disciplines and general theory-related disciplines, recognition will be given of course completion, and a certificate of completion will be issued. However, no more than four credits may be gained from language-related disciplines for the purposes of satisfying completion requirements.



「日本・アジア学」
プログラム2016

Japan-Asian
Studies Program 2016



1 科目履修方法 1. Program participation: Enrolling each course

東京大学のすべての大学院研究科・教育部に所属している学生が履修できます。修了証の取得を目的とした履修だけでなく、個々の科目のみを履修することも歓迎します。

履修にあたっては、UT-mate上で登録を行ってください。ただし、UT-mateに対応していない研究科・教育部局の学生は教務課にて手続きを行ってください。

また、履修する科目が所属している研究科・教育部の科目となっていない場合には「他研究科(教育部)履修」の手続きを、また言語科目群の履修は「学部科目履修」の手続きを行ってください。

All students in the University of Tokyo's graduate schools may take part in the program. Students who take part not for the purpose of gaining a certificate of completion but only for certain courses are also welcome.

To enroll, please follow the prescribed enrolment procedures of your graduate school. In case the course you are taking is not part of the graduate school to which you belong, please complete the "Other graduate school enrolment" procedures, or, for the language-related disciplines, the "Undergraduate course enrolment" procedures.

2 プログラムへの参加 2. Program participation: Enrolling the program

「日本・アジア学」プログラムに参加しようと考えている方は、下記のホームページで連絡先等の登録を行ってください。事務局から、適宜、連絡を受けることができます。

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/6727>

All students who wish to receive the Certificate of Completion are required to register at the following URL. The Managing Committee or the network office will hereafter provide you with necessary information.

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/6727>

3 修了 3. Completion

修了要件である12単位(言語科目群からは4単位まで)を満たしたものは、課程修了前(単位取得満期退学含む)にUT-mateにて手続きを行ってください。手続きの時期等は、各研究科の掲示板ならびにASNETのホームページにて通知されます。ただし、所属部局がUT-mateに対応していない場合は、所属部局の大学院係・教務係に手続きを聞いてください。

Please submit Certificate Request through UT-mate website, if you are able to use the UT-mate system. Otherwise, please ask the network office. [Note: UT-mate is at present available only in Japanese. Please contact the office if you cannot read Japanese].

4 注意事項 4. Important points.

- 最新情報は常にホームページで確認してください。
- 何かわからないことがあれば、お気軽に事務局までご連絡ください。

- >Please check the website regularly for information updates.
- >Please direct any inquiries to the network office.

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

受講生の声

● 受講生／新谷 美央

● 所属／総合文化研究科地域文化研究専攻

アジアへの多角的な視点に触れて

初めて『日本・アジア学』講座に出会った本年度は、中東関係の4科目を受講しました。その中でも、イスラームに直接的・間接的に関係のある研究をされている先生方によるオムニバス形式で実施された、「イスラームを見る眼」についてお伝えします。

本科目では、イスラームの思想、美術、歴史や、アジアの各地域（東南アジア、中央アジア、湾岸諸国）における実態を、毎回異なる角度から講義いただきました。国民の大多数がイスラーム教徒である国を研究対象にしつつも、宗教を研究しているわけではない私にとって、オムニバス形式の本科目は、今まで触れてこなかった視点からイスラームを見つめる良い機会を与えてくれました。また、先生方が自身の研究を選んだ動機やこれまでの研究者人生等も話に盛り込まれていたため、これから研究をどう進めていくか、考える契機にもなりました。

受講を考えている学生の皆さんに、今後、本講座の科目でお会いできることを楽しみにしています。



カタールの首都ドーハの高層ビル群（2010年、筆者撮影）。

● 受講生／渡辺 光祥

● 所属／農学生命科学研究科農学国際専攻

ASNET 科目の受講で「学際的研究」を考える

私は社会に出て感じた矛盾・欺瞞を何とかしようとして社会人から大学に復帰しました。社会に出る前は学部でファジー、修士でAIと学際的研究が求められる分野を研究しておりました。よって工学系にも関わらず認知科学等を学んでいたわけです。そして現在も履修した授業の7割以上は他研究科のものです。それは自分の研究に必要なだからに他なりません。大学において学際的研究は理念だけが先行し実際の研究にはかなりの困難・障害が伴うことは現在もあまり変わらないようです。しかしながら問題解決の為にチャレンジすべきです。ASNETは学際的研究をどのように始めたらよいかわからない人、また、その効果が実感できない人のために親切にも他の部局の講義が用意されています。例えば「イスラームを見る眼」、「医療コミュニケーション」だけを受講するのと、併せて用意されているセンに関する「汎アジア経済学」を一緒に受けて比較してみてください。まったく異なった豊かな見方ができる事を実感できるはずです。

● 受講生／木下 寛人

● 所 属／工学系研究科社会基盤学専攻

「アジアの眼」を養う

修士課程の二年間、東大香港大合同サマープログラムを始めとして、「中国を見る眼」、社会技術論など「日本・アジア学」が提供する授業を受講しました。

私達はつい身近なものや日本だけを意識して物事を考えがちです。しかしこの広大なアジアに於いては、場所が変われば、人も制度も文化も異なり、従って多様な課題や機会が存在しています。

例えば、香港でのサマープログラムでは、日系ベーカリーの香港進出についてフィールド調査を行ったところ、香港では日本のベーカリーが高級店として独自の地位を築いている事が判りました。これは、これらのベーカリーが、香港の土地に根付く人や文化を理解し、自らの強みを生かした結果と言えます。

私が受けた授業はどれもこの様なアジアにおける多様性に眼を向けさせ、日本に育った自分には何ができるのか、と考えるきっかけを与えてくれるものでした。自分の専門分野とは関係ないから…という人も、一度受講してみると「アジアの眼」を通じて自分の専門の見え方が変わるのを感じられると思います。



香港大学にてサマープログラムのグループメンバー（日本人、シンガポール人、香港人）と。

● 受講生／倪 捷

● 所 属／総合文化研究科地域文化研究専攻

通过选修 ASNET 的课程“台湾现代史”，我从另一个角度重新学习了台湾现代史——即以台湾的民主化进程为叙述主轴的台湾历史，突出强调了台湾有别于大陆的独特之处，给大陆出身的我带来了许多启发。这既丰富了大陆方面所阐述的中国近现代史的台湾部分，亦有别于台湾之前国民党所主导的历史叙述方式，以台湾为中心的叙述视角另人耳目一新。历史叙述的方式众口难调，台湾史多元化的叙述充分展现出当下台湾社会中各种力量的相互拉扯和磨合，学习各种视角的历史叙述亦有助于分析当下社会的动向。

同时，课程十分注重阅读资料的多元化，一节课上会有多种参考书目和研究论文的比照阅读，尽量把台湾现代史立体化、具象化。课程的参与者们也背景迥异，大半是日本学生，也有来自中国大陆、台湾、德国、南美等地的留学生，横跨本科硕士博士各个研究阶段，在任课老师松田教授的主持下，上课时的讨论环节十分精彩。不同文化背景、教育背景，甚至不同政治立场的学生同堂探讨台湾的过去、现在以及未来，极大地丰富了我对台湾问题的认识，也对个人今后的研究大有裨益。ASNET 课程的多元化开展方式和背景多样的参与者令人受益匪浅。



科目紹介

- 担当教員：Chiho WATANABE (International Health), Masahiro UMEZAKI (International Health)
- 科目名：人類生態学特論 (Human Ecology)

Human Ecology is a field, which tries to elucidate the interrelation between human population and its surrounding environment and is expected to provide basic knowledge to solve contemporary issues regarding environment, food, and population. Utilizing the conventional approaches including demography, nutritional science, environmental studies, and ecology, human ecology tries to clarify the mechanism of adaptation, with which human population modifies the environment, and in turn the modified environment will give impacts on the human population.

Student who is interested in the issues of urbanization, expansion of population, deterioration of environment, improvement in public health observed in developing countries – Asia and Oceania regions in particular – will be given a good opportunity to understand the underlying mechanism of these issues by learning and discussing the nature of human populations in the context of ecology. The course is offered in English as a mixture of lecture and group discussion.

- 担当教員：後藤絵美 (ASNET)
- 科目名：アジアの近代と女性

19世紀後半から20世紀前半にかけて、アジアの各地では、政治や社会を取り巻く状況が大きく変化しました。帝国主義と民族主義のせめぎ合い、新しい教育制度や社会制度の導入、出版技術や交通機関の発達。そうした動き



1919年、エジプトでイギリスの占領に対する抗議運動が始まった。首都カイロでは、それまで慣習的に人前に立つことのなかった女性たちも街頭デモに参加した。

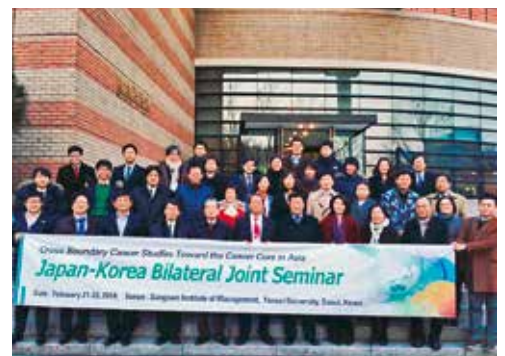
が当時のアジア内外に生きていた人びとの思考や暮らしに、どのような影響を与えたのかを、本講義では、とくに「女性」にかかわるトピックに注目しつつ眺めていきます。イギリスからアジアへ、どのような女性が、何を「文明」として伝えるべきとされたのか。日本人女性らは、何を求めて満州を旅したのか。ジャワに生まれた少女は、オランダ人の文通相手と何を語り合ったのか。本講義では、異なる地域を専門とする複数の講師を迎え、多様な切り口から、「アジアの近代と女性」に接近していきます。この授業を通して、アジアの歴史や人びとの経験について、より広い視野と、深い洞察力を身につけることを目指します。

- 担当教員：赤座英之 (情報学環)・河原ノリエ (情報学環)
- 科目名：アジアでがんを生き延びる

高齢化社会に突入していく日本とアジア。がんという共有課題を通して、高齢化、医療格差、死生観の変容、グローバリズムとナショナリズムのねじれ、などアジアの今日的な課題が浮かび上がってくる。

オムニバス形式の講義は、がんを医学はもとより、政治・経済・文化など様々な領域から捉える問いへの探求を軸として、日本とアジアのありようを読み解いていく。

研究とは自らの問題意識を丁寧に育てていくことである。受講者は、アジアのがんという事象に対峙して、各テーマごとに深掘りされていく場所に降りていくことで、自らが寄ってたつ研究の相対化に繋がる仕掛けともなっている。



この授業の受講生も参加して「Cross-boundary Cancer Studies」という学際連携プログラムが日中韓の大学連携としてスタートしている(延世大学)

Contents

目次

分野	科目名	担当教員	学期	ウェブページ	ページ
総論	● アジアの近代と女性 (地域文化研究特別講義 I)	後藤絵美	S	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8054	P.07
	● アジアのフィールドワーク論 (地域文化研究特別講義 II)	池本幸生・後藤絵美	S	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8056	P.07
	● アジアでがんを生き延びる (地域文化研究特別講義 II)	赤座英之・河原ノリエ	S	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8057	P.08
	● 現代民俗学の可能性と課題 (通文化研究基礎論 II)	菅豊	S	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8058	P.08
	● 中東の経済発展・政治変動と文化社会変容 (通文化研究基礎論 I)	長澤榮治	S	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8059	P.09
	● 戦後初期日本の民族関係 (アジア太平洋文化交流論 II)	外村大	A	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8060	P.09
	● 途上国農村経済論 (アジア太平洋地域文化演習 II)	高橋昭雄	S	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8061	P.10
	● 朝鮮半島をめぐる政治経済・国際政治 (多元世界解析演習 I)	木宮正史	S	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8062	P.10
	● 朝鮮半島をめぐる政治経済・国際政治 (多元世界解析演習 I)	木宮正史	A	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8097	P.11
	● 書き直される中国近現代史 (国際社会科学特別講義 IV)	川島真	A	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8063	P.11
	● 人間環境論 II	永田淳嗣	S	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8064	P.12
	● サステナビリティの戦略 II	永田淳嗣	A	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8065	P.12
	● 現代イスラームの潮流 (地域文化研究特別講義 II)	後藤絵美	A	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8066	P.13
社会・文化論	● 世界史研究の方法 (比較アジア社会文化論演習)	羽田正	A	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8067	P.13
	● グローバル・ヒストリーとアジア (1)(2)(アジア史学演習)	水島司	S/A	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8068	P.14
	● 近代アジアの開発と社会変化 (1)(2)(比較アジア社会文化論演習)	水島司	S/A	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8069	P.14
	● 社会比較論 (韓国朝鮮言語社会特殊研究)	本田洋	S	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8070	P.15
	● 韓国の社会人類学 (韓国朝鮮言語社会特殊研究)	本田洋	S	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8071	P.15
社会論	● Advanced Lectures on Sociotechnology	HORII Hideyuki	S	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8072	P.16
	● Case Studies of International Projects	HORII Hideyuki	A	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8073	P.16
自然環境論	● アジアの食と農・環境 (農学国際特論 III)	井上真	集中	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8074	P.17
	● サステナビリティと作物生産学	鴨下顕彦	集中	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8075	P.17
	● 連帯経済とソーシャル・ビジネス (汎アジア経済論 V・VI)	池本幸生	S1SP	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8076	P.18
	● アマルティア・センの正義論 (汎アジア経済論 VII・VIII)	池本幸生	A1A2	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8077	P.18
	● 緑地創成学特論	大黒俊哉	集中	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8078	P.19
健康論	● 国際地域保健学特論 I	神馬征峰	S1	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8079	P.19
	● 精神保健学 I	川上憲人	S	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8080	P.20
	● 精神保健学 II	島津明人	A	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8081	P.20
	● 医療コミュニケーション学講義	木内貴弘	S1	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8082	P.21
	● 医療コミュニケーション学演習	木内貴弘	S2	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8083	P.21
	● 人類生態学特論 I	渡辺知保	S1	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8084	P.22
	● 健康教育学	橋本英樹	A2	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8085	P.22
	● 健康社会学	橋本英樹	A1	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8086	P.23
	● Introduction to Asian Studies: History and International Relations (ITASIA101)	MATSUDA Yasuhiro	A1	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8087	P.23
情報論	● Surviving Cancer in Asia (ITASIA128)	AKAZA Hideyuki	A	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8089	P.23
	● International Conflict Study (ITASIA124)	FUJIWARA Kiichi	S	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8088	P.24
	● Modern Japanese Diplomacy (ITASIA131)	KOHARA Masahiro	S	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8090	P.24
	● Japanese Foreign Economic Policy (ITASIA133)	IIDA Keisuke	A	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8091	P.24
	● Japan in Hong Kong (ITASIA129)	SONODA Shigeto	集中	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8092	P.25
	● Understanding Japanese Company in China (ITASIA144)	SONODA Shigeto	集中	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8093	P.25
	● 文化・人間情報学特論 I	真鍋祐子	A	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8094	P.25
	● 中国経済 (東アジア産業論)	丸川知雄・伊藤亜聖	A	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8095	P.26
特論					

アジアの近代と女性 ～地域文化研究特別講義Ⅰ～

科目番号 Course ID Number	31M220-1310S 31D220-1310S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	後藤絵美 (ASNET) Emi Goto (ASNET)	場 所 Venue	駒場キャンパス 8号館 8-205 Room 205, Bldg no. 8, Komaba campus
授業時間 Semester/Time	S semester 月 (Mon) 2限 (10:25-12:10)	履修上の注意 Notes on Taking the Course	受講者には報告あるいは感想・質問文の提出を課す回がある。

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview

本講義は、19世紀から20世紀のアジア諸地域における女性をめぐる動きに焦点をあてることで、「アジアの近代」について新しい視角や視点を模索しようとするものである。近代とは多様な社会改革が行われた時期であり、帝国主義と民族主義のせめぎ合いが社会の諸相に大きな影響を与えた時代である。この時期、アジア諸国では、欧米に続く形で新しい教育システムや出版技術が採り入れられ、知識や権威のあり方に大きな転換が見られた。本講義では、そうした状況下、「女性」の存在がどのように問題化し、議論され、また女性自身がその中にどう関わった（あるいは関わらなかった）のかを、異なる地域の歴史と文化を専門とする研究者による著述の講読と講義とによって考えていく。

- 4月11日 坂元ひろ子・後藤絵美「オリエンテーション」
- 4月18日 坂元ひろ子「アジアの近代一概论」
- 4月25日 文献講読
- 5月2日 休講
- 5月9日 山口みどり「『文明化の使者』? ——イギリス女性とアジア」
- 5月16日 文献講読
- 5月30日 青木淳子「雑誌と新しい女性像—『女人芸術』」
- 6月6日 高 媛「帝国と観光——日本人女性の満洲旅行」
- 6月13日 文献講読
- 6月20日 野中 葉「インドネシアのカルティニ書簡集とカルティニ像」
- 6月27日 鳥山純子「消費者として創られる『女性』——19世紀末のエジプトを事例に」
- 7月4日 まとめ
- 7月11日 予備日

詳しい情報はこちらで→



アジアのフィールドワーク論 ～地域文化研究特別講義Ⅱ～

科目番号 Course ID Number	31M220-1321S 31D220-1321S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	池本幸生（東洋文化研究所）・後藤絵美 (ASNET) Yukio Ikemoto (Advanced Studies on Asia), Emi Goto (ASNET)	場 所 Venue	東洋文化研究所三階第二会議室 Meeting Room 2, 3rd floor, Institute for advanced Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester 水 (Wed) 2限 (10:25-12:10)		

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview

本講義では、多様な学問分野・対象地域を専門とするアジア研究者の経験や議論を参照しつつ、フィールドワークについて学ぶ。

- 4月6日 イントロダクション
- 4月13日 文献講読
- 4月20日 文献講読
- 4月27日 池亀彩（人類学・インド）
- 5月11日 山下里香（言語学・パキスタン）
- 5月18日 塚本麿充（美術史・中国）
- 6月1日 宮本隆史（歴史資料学・インド）
- 6月8日 関山牧子（国際保健学・インドネシア）
- 6月16日 / 6月17日 * 見市建（政治学・インドネシア）
* この日のみ、木曜午前あるいは金曜午後の開講
- 6月22日 実習に向けた準備
- 6月29日 実習
- 7月13日 まとめ

詳しい情報はこちらで→



分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

アジアでがんを生き延びる ～地域文化研究特別講義 II～

Surviving Cancer in Asia

科目番号 Course ID Number	31M220-1327S 31D220-1327S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	赤座英之 (情報学環)・河原ノリエ (情報学環) Hideyuki Akaza (Interfaculty Initiative in Information Studies) Norie Kawahara (Interfaculty Initiative in Information Studies)	場 所 Venue	医学部教育研究棟 第1セミナー室 Seminar Room 1, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester 月 (Mon) 5 限 (16:50-18:35)	履修上の注意 Notes on Taking the Course	冬学期に本授業と運動した授業を開講予定 ITASIA128 Surviving Cancer in Asia
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	がんというアジアの喫緊の共有課題を通して、高齢化、経済格差、死生観の変容、グローバリズムとナショナリズムのねじれ、などアジアの今日的な課題が浮かび上がってくる。本講義は、がんを医学はもとより、政治・経済・文化など様々な領域から捉えてみることを通して、世界の内実を読み解くことを学問的考察の端緒とする学際連携プログラム「Cross-boundary Cancer Studies」の一環に位置づけられている。		

- 4月11日 吉見俊哉 (東京大学) 「いま癌を学際研究で学ぶことの意味とは何か」
 4月18日 赤座英之 (東京大学) 「アジアの癌の特徴から何が見えるか」
 5月16日 園田茂人 (東京大学) 「アジアの人々は癌をどのように受け止めているのか」
 5月23日 波平恵美子 (お茶の水女子大学) 「概念資源としての医療人類学の役割とは」
 5月30日 河原ノリエ (東京大学) 「カラダの情報は誰のものなのかー癌情報の収集と利活用における研究倫理」
 6月13日 堀江重郎 (順天堂大学) 「がん患者の生活の質とはなにか」
 6月20日 福田敬 (国立保健医療科学院) 「いのちに値段はつけられるのか」
 6月27日 三宅淳 (大阪大学) 「人工知能はアジアのがんを読み解くことができるのか」
 7月4日 服部幸應 (服部学園) 「アジアの食と文化一ひとはなんのために食べてきたのか」
 7月11日 藤崎一郎 (上智大学) 「日本・アジア・アメリカーいま、アジア外交はどのような視点でみていけばよいのか」
 7月25日 学生発表
 赤座英之 「UHC という概念とアジアのがん」

詳しい情報はこちらで→



分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

現代民俗学の可能性と課題 ～通文化研究基礎論 II～

科目番号 Course ID Number	31M220-1144S 31D220-1144S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	菅豊 (東洋文化研究所) Yutaka Suga (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所 Institute for Advances Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester 水 (Wed) 1 限 (8:30-10:15)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	近代的状況において、世界各地で「民俗学」という学問が勃興した。「民俗学」は、土着文化の自己理解とその復興運動、そして、その運動の学問化の運動とすることができる。それは、社会状況の大きな変化に伴い、現在、学問の根本からの大きな変革が求められている。その変革に向けて、旧来の民俗学の否定と解体、そして、現代に適合した新しい研究領域としての再構築を行うために、日本のみならず海外の民俗学を取り上げながら、現代民俗学の理論的検討を行う。		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	初回開講は4月6日(水)1限9:00pmの予定。初回開講日は変更の可能性があります。また開講教室確定の都合のため、受講希望者は4月4日(月)までに菅宛にメール (suga@ioc.u-tokyo.ac.jp) で連絡すること。授業は本郷キャンパスで開講する。		

詳しい情報はこちらで→



中東の経済発展・政治変動と文化社会変容 ～通文化研究基礎論Ⅰ～

科目番号 Course ID Number	31M220-1133S 31D220-1133S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	長澤榮治（東洋文化研究所） Eiji Nagasawa (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所 804 室 Room 804, Institute for advanced Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester 水 (Wed) 3 限 (13:00-14:45)		

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>中東の社会変容に関する考察を通じて、同地域が直面する様々な問題に対する客観的な分析を可能にする方法論的態度を学ぶことを目標とする。</p> <p>中東諸国の経済発展と政治変動、およびそれに伴う文化社会変容をめぐる諸問題を多面的に考察する。今年度は現代中東の思想変動と経済開発に関する文献を講読する。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回以降 文献講読</p>
--	--

詳しい情報はこちらで→



戦後初期日本の民族関係 ～アジア太平洋文化交流論Ⅱ～

科目番号 Course ID Number	31M220-0983A 31D220-0983A	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	外村大（総合文化研究科） Masaru Tonomura (Arts and Sciences)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	A semester 他 TBA		

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>1945年から朝鮮戦争前後の時期について、日本社会のマジョリティである日本人とそれ以外のエスニックマイノリティとの関係に関わる史料を読んでいく。それを通じて、日本社会の特徴、その後の日本社会に与えた影響、それ以前の民族関係のあり方との連続と断絶などについて討論し、考えていく。</p> <p>講義の最初の2回は、授業参加者の問題関心を踏まえて共通認識、この時期を把握するための前提として、日本戦後史、日本占領についての概説と研究状況の整理を行うとともに、具体的に読むべき史料について議論する。それを踏まえて、第3回以降は、史料の読解を進めていく。具体的に読解していく史料としては、GHQ文書中の在日朝鮮人や在日台湾人関係の文書、プランゲ文庫中のエスニックマイノリティが関係する雑誌や新聞、関係団体の機関誌等である。</p>
--	--

詳しい情報はこちらで→



分野／総論（総合文化研究科） Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

途上国農村経済論 ～アジア太平洋地域文化演習Ⅱ～

科目番号 Course ID Number	31M220-1007S 31D220-1007S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	高橋昭雄（東洋文化研究所） Akio Takahashi (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所 606 室 Room 606, Institute for Advanced Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester 火 (Tue) 4 限 (14:55-16:40)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>発展途上国の農村社会経済について勉強する。「農業」経済ではなく「農村」社会経済であるので、当然のことながら、農村工業、労働移動、就業構造、都市化、貧困といった問題も含めて演習の課題とする。どのような 이슈に重点をおくかについては参加者と協議のうえ決定する。</p> <p>東南アジアを中心とする発展途上国農村に関する最近の論文をテキストとし、当該テキストの内容、問題点、参考にすべき点等について、まず報告者が発表し、その後授業参加者でディスカッションを行う。</p>		

詳しい情報はこちらで→



分野／総論（総合文化研究科） Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

朝鮮半島をめぐる政治経済・国際政治 ～多元世界解析演習Ⅰ～

科目番号 Course ID Number	31M220-0133S 31D220-0133S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	木宮正史（学際情報学府） Tadashi Kimiya (Interfaculty Initiative in Information Studies)	場 所 Venue	駒場キャンパス 8 号館 8-110 Room 110, Bldg no. 8, Komaba campus
授業時間 Semester/Time	S semester 金 (Fri) 4 限 (14:55-16:40)	履修上の注意 Notes on Taking the Course	授業では ITC-LMS を使用するのので、各自、登録して使用できるようにしておくこと。
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>人文社会科学における韓国研究の論文執筆に関して、過去の先輩たちの実体験に基づいて、具体的にどのような問題意識を持ち、それをどのように博士論文という形で具体化したのか、そのプロセスを本人の言葉から知ることにより、自分の修士論文および博士論文の執筆に向けた知見を獲得することを目標とする。具体的には、博士論文を執筆したばかりの何人かのゲストスピーカーを招き、どのようなきっかけで博士論文に関する問題意識を獲得するに至ったのか、また、それを具体的な論文の形にするために、どのような計画を立て、取り組んだのか、さらに、その過程でどのような困難があり、それをどのように克服したのかなどの話をしてもらったうえで、それを自分の取り組みに活かしていく。</p>		

- 4月 8日 (金) 木宮正史「ガイダンス」
- 4月 15日 (金) 金伯柱「朝鮮半島研究のアイデンティティ」
- 4月 22日 (金) 金伯柱「朝鮮半島と国際政治：歴史」
- 5月 6日 (金) 金志英「朝鮮半島と国際政治：理論」
- 5月 16日 (月) 河旻珍「文化研究」
- 5月 20日 (金) 孫齊勇「比較政治（日韓比較）」
- 5月 27日 (金) 権聖柱「日韓関係（歴史認識問題）」
- 6月 10日 (金) 上原こずえ「フィールドワーク（沖縄事例）」
- 6月 17日 (金) 高賢來「米韓関係」
- 6月 24日 (金) 崔慶嬭「北朝鮮研究」
- 7月 1日 (金) 木宮正史「研究プロポーザルの発表 1」
- 7月 8日 (金) 木宮正史「研究プロポーザルの発表 2」
- 7月 15日 (金) 木宮正史「まとめ」

詳しい情報はこちらで→



朝鮮半島をめぐる政治経済・国際政治 ～多元世界解析演習Ⅰ～

科目番号 Course ID Number	31M220-0134A 31D220-0134A	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	木宮正史（学際情報学府） Tadashi Kimiya (Interfaculty Initiative in Information Studies)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	A semester 他 TBA	履修上の注意 Notes on Taking the Course	本授業は、大学院総合文化研究科、大学院学際情報学府との合併授業であり、場所は駒場Ⅰキャンパスで行う。
授業の目標・概要 Course Objectives/Overview	1970年代の国際政治は「デタント」として特徴づけられる。1960年代の冷戦の絶頂期が70年代に入り、米中和解や米ソデタントなど、大国間国際政治のレベルで「デタント」と呼ばれる緊張緩和への動きが生まれ、それが一定程度制度化されたにもかかわらず、それが必ずしも堅固化しなかったという点に特徴があると思われる。また、大国間国際政治におけるデタントが、冷戦体制に組み込まれた諸地域や諸国家に対してどのような影響を及ぼし、どのような帰結をもたらしたのかに関して、近年、外交文書の公開とともに研究が蓄積されつつある。本授業では、当該分野に関する最先端の研究成果を読み、1970年代国際政治に関する研究に新たな視点を取り入れることを目指す。そのうえで、受講者の関心に沿って、1970年代国際政治に関連した事例研究を行い、発表してもらうことも考えている。		

授業の3分の2くらいは、当該テーマに関する基本的な文献を輪読することによって、1970年代の国際政治に関する基本的な知識を獲得するとともに、何が争点になっているのかを確認することを目指す。さらに、1970年代における国際政治の動態と、その中で展開された朝鮮半島をめぐる国際政治、さらには、朝鮮半島内部で展開された政治経済の動態に関しても考察する。授業の3分の1くらいは、各自、できるだけ当該テーマにひきつけた研究発表を行い、それに関する相互評価を行うことで、各自の研究の進展を図るとともに、そうした研究が、先行研究に対してどのような新たな知見を加えられるのかに関して共に考える。

詳しい情報はこちらで→



書き直される中国近現代史 ～国際社会科学特別講義Ⅳ～

科目番号 Course ID Number	31M230-1140A 31D230-1140A	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	川島 真（総合文化研究科） Shin Kawashima (Arts and Sciences)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	A semester 木 (Thu) 5 限 (16:50-18:35)	履修上の注意 Notes on Taking the Course	予定が変更になることもあるので詳細は、東京大学現代中国研究拠点（社会科学研究所）ウェブサイト参照されたい（ http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/kyoten/ ）。
授業の目標・概要 Course Objectives/Overview	この講義は、2016年度で第九回目を迎える。第一年度（2008年度）は人物評価を、第二年度（2009年度）は事件・運動を、第三年度（2010年度）はローカルな空間や社会集団を基軸に講義を組み立て、第四年度（2011年度）は史料・資料に焦点を当て、第五年度（2012年度）は主に若手研究者をゲストに招き、その視線から見た新しい研究動向を扱い、第六年度（2013年度）は昨今進展著しい戦後東アジア国際政治史、東アジア冷戦史について、第七年度は日中戦争史について多様な角度から検討し、第八年度は「中国史の境界線－異質・多元・包摂－」として中国史の多様な語り方を考察した。		

今年度は以下のように「現代中国理解講座：現代中国への視線－歴史の視座と多様性－」として、政治、法律、行政、外交、経済、社会、思想文化などの多様な面から、とかく話題になる現代中国を多角的に捉える。中国については、マスコミでセンセーショナルに捉えられることが少なくなく、是非学生諸君には中国を可能な限り偏り無く理解する方法を学んで欲しい。

- 9月29日（木）ガイダンス・川島真
川島 真（東京大学）「中国外交史と現代中国外交」（仮題、以下同じ）
- 10月6日（木）高原 明生（東京大学）「モンゴルから見た“中国史”」
- 10月13日（木）中国からのゲスト講師
- 10月20日（木）梶谷 懐（神戸大学）「中国経済の現状と課題」（マクロ）
- 10月27日（木）丸川 智雄（東京大学）「中国経済の現状と課題」（ミクロ）
- 11月8日（火）阿古 智子（東京大学）「中国の国家－社会関係」
- 11月10日（木）中国からのゲスト講師
- 11月28日（月）富坂 聡（拓殖大学）「中国社会で起きていること」
- 12月1日（木）村田雄二郎（東京大学）「現代中国の思想文化」
- 12月8日（木）中国からのゲスト講師
- 12月15日（木）鈴木 賢（明治大学）「中国の法制度と社会」
- 12月22日（木）園田 茂人（東京大学）「中国社会をいかに把握するか」
- 1月5日（木）予備日

詳しい情報はこちらで→



分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

人間環境論 II

Human Geography II

科目番号 Course ID Number	31M282-0620S 31D282-0620S	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	永田淳嗣 (総合文化研究科) Junji Nagata (Arts and Sciences)	場 所 Venue	駒場キャンパス 2 号館 202 号室 Room 202, Bldg.2, Komaba Campus
授業時間 Semester/Time	S semester 火 (Tue) 3 限 (13:00-14:45)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	現代社会における社会変動と生態システム変化の複雑な関係を読み解くための、現場での現象理解に立脚した方法論・手法を受講者とともに探る。理論面とともに日本や東南アジアでの研究に基づく実践面からの検討を行う。 文献購読と、それに基づくプレゼンテーション、ディスカッションを中心とする。		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	主体的な問題意識を持ち、インテンシブな文献購読、濃密なディスカッション、十分に準備されたプレゼンテーションに意欲を持つものに受講を限る。		

詳しい情報はこちらで→



分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

サステナビリティの戦略 II

Sustainability Strategy II

科目番号 Course ID Number	31M290-0180A 31D290-0180A	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	永田淳嗣 (総合文化研究科) Junji Nagata (Arts and Sciences)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	A semester 火 (Tue) 3 限 (13:00-14:45)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	現代社会における社会変動と生態システム変化の複雑な関係を読み解くための、現場での現象理解に立脚した方法論・手法を受講者とともに探る。理論面とともに日本や東南アジアでの研究に基づく実践面からの検討を行う。 文献購読と、それに基づくプレゼンテーション、ディスカッションを中心とする。		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	主体的な問題意識を持ち、インテンシブな文献購読、濃密なディスカッション、十分に準備されたプレゼンテーションに意欲を持つものに受講を限る。		

詳しい情報はこちらで→



現代イスラームの潮流 ～地域文化研究特別講義Ⅱ～

科目番号 Course ID Number	31M220-1325A 31D220-1325A	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	後藤絵美 (ASNET) Emi Goto (ASNET)	場 所 Venue	東洋文化研究所三階第二会議室 Meeting Room 2, 3rd floor, Institute for advanced Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A semester 月 (Mon) 2 限 (10:25-12:10)		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	受講者には報告あるいは感想・質問文の提出を課す回がある。		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>本講義では、現代世界における「イスラーム勢力」およびそれ以外のイスラームの潮流の全体像を把握し、それを歴史的文脈の中に位置づけることを目指す。その際、主にエジプトを事例に、イスラームの潮流について、いくつかの分類のされかたを眺めていく。その作業を通して、中東地域でのこれまでの動きや今後の動きを見る際の視覚を培っていきたい。</p> <p>授業の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. メディアにうつる「イスラーム」 2. 「イスラーム」とは何か 3. イスラーム潮流の類型化 		

詳しい情報はこちらで→



世界史研究の方法 ～比較アジア社会文化論演習～

科目番号 Course ID Number	21162865	使用言語 Language	英語、日本語 English, Japanese
担当教員 Teacher	羽田正 (東洋文化研究所) Masashi Haneda (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所三階第一会議室 Meeting Room 1, 3rd floor, Institute for advanced Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A semester 金 (Fri) 3 限 (13:00-14:45)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<ol style="list-style-type: none"> ①最近の国内外における新しい世界史研究の潮流を理解すること。 ②世界史や global history に関連する書籍を読み、参加者の間で討論して、世界史をどのように理解し、叙述すべきかについて、見通しを得ること。 <p>指定された関連文献（英語、日本語）を全員があらかじめ読んだ上で授業に参加する。担当者による内容紹介とコメントをもとに、全員で議論を行う。</p>		

詳しい情報はこちらで→



分野／社会・文化論（人文社会系研究科） Field : Society and Culture

単位／各 2 Credit : 2

グローバル・ヒストリーとアジア (1)(2) ～アジア史学演習～

科目番号 Course ID Number	21162851 (1) 21162852 (2)	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	水島司（人文社会系研究科） Tsukasa Mizushima (Humanities and Sociology)	場 所 Venue	法文 1 号館 424 教室 Room 424, Law and Letters Building 1, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S・A semester 月 (Mon) 5 限 (16:50-18:35)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>近代のアジアでは、植民地都市、宗教都市、工業都市が生まれ、成長していった。大きな農村人口を抱えながらも、それらの都市はアジア社会の変容を先導し、グローバル・エコノミーとの一体化を導いた。演習では、南インドの典型的な植民地都市であるマドラス、宗教都市であるカーンチープラム、工業都市であるコインバトールを主に取り上げ、そこでの人口動向、カースト構成の変化、職業構造の変化などを、1871 年以降の人口センサスを史料として、主に GIS（地理情報システム）を手法として分析する。それらの作業を通じて、グローバル・ヒストリーの展開とアジアの都市が近代の歴史の中で果たした役割の意義を考える。</p> <p>参加者は、GIS の基本的な技法を学び、対象とする都市の史料の地図化の方法を習得する。続いて、対象とする都市の歴史に関する先行研究の輪読と並行して、それらの都市に関する統計データの地図化と、そこから得られた知見を他の史料とクロスさせて歴史の動きとして組み立てていく手法を学ぶ。</p>		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	<p>初回の開講日は 4 月 18 日。A セメスターの開講日は S セメスターの最後に指示する。 無断欠席は 1 回、あるいはどういう理由であれ 3 回以上欠席した場合は、単位を認定しない。 初回の演習時から、各自のパソコンを持参すること。パソコンを所有していない学生は、演習室のパソコンを利用することになる。</p>		

詳しい情報はこちらで→



分野／社会・文化論（人文社会系研究科） Field : Society and Culture

単位／各 2 Credit : 2

近代アジアの開発と社会変化 (1)(2) ～比較アジア社会文化論演習～

科目番号 Course ID Number	21162861 (1) 21162862 (2)	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	水島司（人文社会系研究科） Tsukasa Mizushima (Humanities and Sociology)	場 所 Venue	法文 1 号館 424 教室 Room 424, Law and Letters Building 1, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S・A semester 月 (Mon) 4 限 (14:55-16:40)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>アジア地域に関し、人口動向と農業開発の進展、および、それにともなう社会変化に関する一次史料や先行研究を読み、社会変化を解明する方法論や、史料読解について学ぶと共に、歴史地理情報システムを用いた歴史地図の作成方法と歴史空間情報データベースの利用方法を習得する。</p> <p>授業目標に関連する文献を講読し、それらの読解に必要な各種工具書の使い方や歴史分析に有効な歴史地理情報システムの手法を身につける。出席者は毎回事前に予習をして授業にのぞみ、文献や資料を講読する。</p>		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	<p>初回開講日は 4 月 18 日。A セメスターの開講日は S セメスターの最後に指示する。 無断欠席は 1 回、あるいはどういう理由であれ 3 回以上欠席した場合は、単位を認定しない。 演習参加者は、パソコンを用意する。パソコンを所有していない場合は、研究室のパソコンを利用する。</p>		

詳しい情報はこちらで→



社会比較論 ～韓国朝鮮言語社会特殊研究～

科目番号 Course ID Number	21166503	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	本田洋（人文社会系研究科） Hiroshi Honda (Humanities and Sociology)	場 所 Venue	赤門総合研究棟 723 演習室 Seminar Room 723, Akamon General Bldg, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester 月 (Mon) 3 限 (13:00-14:45)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	韓国朝鮮社会を対象とする民族誌的文献と関連文献の講読を通じ、社会人類学の視角と方法についての理解を深めるとともに、研究対象の同定・定義、問題設定、資料収集、分類・分析・解釈といった、社会比較を念頭に置いた質的研究の基礎的な方法を学ぶ。講読文献としては、韓国朝鮮社会の持続性と近代化・産業化・グローバル化の過程での社会経済的変化を扱ったモノグラフ、ならびに関連する理論的著作が主となる。		

授業は演習形式で行う。初回にガイダンスを行い、2回目から文献講読に入る。講読する文献には一部、日本語のものも含まれるが、主体は韓国語と英語で書かれたものとなる。受講者には、原則として韓国語の基礎的な読解能力が求められるが、英語文献の講読や討論への積極的な参加が可能であれば、必ずしも韓国語が分からなくても受講を歓迎する。また、修士課程2年以上の受講者については、個人研究発表の機会も設ける。

詳しい情報はこちらで→



韓国の社会人類学 ～韓国朝鮮言語社会特殊研究～

科目番号 Course ID Number	21166505	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	本田洋（人文社会系研究科） Hiroshi Honda (Humanities and Sociology)	場 所 Venue	法文1号館 112 教室 Room 112, Law and Letters Building 1, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester 火 (Tue) 5 限 (16:50-18:35)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	韓国社会の生き方（日常生活、生活様式、生計維持・社会的生存の諸戦略、その他生活の必要性や欲望を充足するための方法と実践）を、担当教員自身による調査研究の成果と韓国朝鮮社会に関する民族誌的諸研究のレビューを通して、社会人類学的に検討する。現代韓国社会に参与しながら暮らす人たちの生き方の分化と折衝について、持続性と流動性の両面を視野に入れ、一方で歴史的蓄積を掘り起こしつつ（歴史民族誌的方法）、他方で相互対照を行うことで（対照民族誌的方法）、その個別性と一般性に光をあてるとともに、フィールドの現実に即した理解を試みる。		

初回はイントロダクション、2回目は韓国社会と生き方に関する人類学的研究方法とその成果についての概説を行ったうえで、3回目から各論に入る。トピックとしては、グローバル化・新自由主義と主流／オルターナティブの再編、向都離村と農村移住、都市中産層の生き方、儒教化する小農社会の長期持続、コミュニティをめぐる実践等を取り上げる予定である。

詳しい情報はこちらで→



分野 / 社会技術論 (工学系研究科) Field : Social Technology

単位 / 2 Credit : 2

Advanced Lectures on Sociotechnology

科目番号 Course ID Number	3713071	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	Professor Hideyuki Horii (Engineering) Dr. Shunsaku Komatsuzaki (Engineering)	場 所 Venue	工学部 1 号館 17 講義室 Room 17, Faculty of Engineering, Bldg.1
授業時間 Semester/Time	S semester 金 (Fri) 3 限 (13:00-14:45)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>社会問題およびその解決事例を取り上げ、ケースメソッドによる学習とケースに基づくイノベーションワークショップを通じて、社会技術に関わる知識、問題分析方法・能力、問題解決策立案方法・能力を習得する。学期前半では主にケースメソッドによる学習、後半はイノベーションワークショップを中心とする。</p> <p>Contemporary social problems, such as BSE and the Great East Japan Earthquake, cannot be solved by any single discipline and we must have a competency to manage, or even initiate, multidisciplinary problem solving. Sociotechnology (Shakai-Gijutsu) is a means to solve societal issues by a multidisciplinary approach using natural and social scientific knowledge and methodologies.</p>		

Students are expected to learn the abilities and knowledge of Sociotechnology by case method. In the first half of the semester, using orthodox case method, you will learn methods to analyze problem and a logical process to reveal fundamental cause(s). In the second half, you will learn skills to create new idea based on existing cases. The innovation workshop method by the University of Tokyo i.school (<http://ischool.t.u-tokyo.ac.jp/>) will be employed. You will finally acquire the competency to practice the methods and knowledge of Sociotechnology to solve social problems in the real world.

Outline of the course:

1. Case Method
 - 1.1 Brazil Electricity Crisis (Kennedy)
 - 1.2 Hurricane Katrina (A)-(C) (Kennedy)
 - 1.3 Accident at Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Station (UT)
2. Case Analysis and Innovation Workshop

詳しい情報はこちらで→



分野 / 社会技術論 (工学系研究科) Field : Social Technology

単位 / 2 Credit : 2

Case Studies of International Projects

科目番号 Course ID Number	3713073	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	Professor Hideyuki Horii (Engineering) Professor Hironori Kato (Engineering) Mr. Takashi Kumon (Engineering) Dr. Shunsaku Komatsuzaki (Engineering) Dr. So Morikawa (Engineering)	場 所 Venue	工学部 1 号館 17 講義室 Room 17, Faculty of Engineering, Bldg.1
授業時間 Semester/Time	A semester 水 (Wed) 3 限 (13:00-14:45)		

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>国際プロジェクトに関わる事例を取り上げ、ケースメソッドによる学習を通じて、国際プロジェクトに関わる知識、問題分析方法・能力、問題解決策立案方法・能力を習得する。特に、それぞれ専門知識を持った教員の下での学習を行うことによって、各ケースに関わる専門的知識を身につけることも求められる。</p> <p>We civil engineers are involved not only in construction of infrastructure but also in solving a variety of social problems. For example, the Great East Japan Earthquake set a new task to build new embankments along the Sanriku Coast. It is not a purely technical issue but a social one as social acceptance would be necessary to build those embankments. Even experts of structural mechanics cannot avoid or ignore it. The same thing can be said to international project; for example, Kotopanjang Dam project in Indonesia caused a strong public opposition, which was actually evoked by NGO, and ended in court. You, as future civil engineers, must have competencies to deal with such various aspects of international project.</p>		
--	---	--	--

Students are expected to learn the skills of problem solving (analysis, evaluation and forecast) and solution design and the professional knowledge of international project through case method in this course. The instructors with different professional backgrounds will give you an opportunity to learn a wide range of expertise to manage and/or initiate international project in future.

Outline of the cases:

1. Resettlement Problem in Batangas Port Development Project in Philippines (UT) = Prof. Kato
2. The "Miracle" of Kamaishi: The Solution that Achieved the Miracle (UT) = Dr. Komatsuzaki
3. Congestion Pricing for Stockholm (Kennedy) = Prof. Horii
4. Land Acquisition and Involuntary Resettlement in Southern Transport Development Project in Sri Lanka (UT) = Dr. Morikawa
5. Unilever in India: Hindustan Lever's Project Shakti - Marketing FMCG to the Rural Consumer (HBS) = Mr. Kumon

詳しい情報はこちらで→



アジアの食と農・環境 ～農学国際特論Ⅲ～

Food, agriculture and environment in Asia

科目番号 Course ID Number	3910132	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	井上真（農学生命科学研究科） Makoto Inoue (Agriculture)	場 所 Venue	農学部 7 号館 B 棟 7B-231/232 Faculty of Agriculture Bldg no.7B Lecture Room 231/232
授業時間 Semester/Time	集中講義 intensive (S1-W)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>アジアの食料、農業および環境問題の現状と解決策について、俯瞰的な視野を持つとともに、ローカルな現場のリアリティに立脚して検討できるような複眼的な視点を養う。</p> <p>To acquire multiple viewpoints for tackling the problems of agriculture and environment against the reality at the local as well as global scales.</p> <p>(1) April 16, 2016: Improving Irrigation Performance in Asia: Understanding Robustness-Vulnerability Issues of Social Ecological Systems Lecturer: Prof. Ganesh P. Shivakoti (AIT, Thailand)</p> <p>(2) July 23, 2016: Climate Change and Human Security: Implications to Forestry Sector Lecturer: Prof. Juan M. Pulhin (UPLB, The Philippines)</p> <p>(3) October 8, 2016: Japan's Dietary Transition and Its Impacts Lecturer: Professor Kazuhiko Kobayashi (The University of Tokyo)</p> <p>(4) November 26, 2016: Community Forestry Development in Indonesia: Status and Threats Lecturer: Professor Christine Wilandari (Lampung University, Indonesia)</p> <p>(5) February 4, 2017: Food Production in Myanmar: Case Studies on Opportunities and Constraints in Crop and Vegetable Production Lecturer: Prof. Khin Lay Swe (Yezin Agricultural University, Myanmar)</p> <p>Coordinators: Makoto Inoue (1,2,4) Kazuhiko Kobayashi (3, 5)</p>		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	<p>幹事教員：井上真、小林和彦、岡田謙介 講義中のノートパソコン、iPad、タブレット端末、iPhone 等の使用は禁止。</p> <p>You may not use notebook PC, iPad, tablet PC, iPhone, etc. during the lecture.</p>		

詳しい情報はこちらで→



サステナビリティと作物生産学

Sustainability and Crop Production

科目番号 Course ID Number	3910323	使用言語 Language	英語 English														
担当教員 Teacher	鴨下顕彦（アジア生物資源環境研究センター） Akihiko Kamoshita (ANESC)	場 所 Venue	TBA														
授業時間 Semester/Time	集中講義 intensive (A1-SP)																
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>世界の稲作の多様性や技術的な課題について学び、ステークホルダー解析などの参加型演習を交えながら、持続可能な開発と食料生産の関連性を主体的に考えながら学ぶ。途上国を含む世界の作物生産に関する基礎知識や複眼的な見方を習得する。</p> <p>Based on the basic and advanced learning of diversity of rice ecosystem and challenges for rice production technology, learn and discuss relationship between food production and sustainable development, including participatory practice such as stakeholder analysis. Students should aim to demonstrate basic knowledge and multiple viewpoints about world crop production including developing countries.</p> <table border="0"> <tr> <td>ユニット 1 持続可能な農業と稲生態系</td> <td>Unit 1 Sustainable agriculture and rice ecosystem</td> </tr> <tr> <td>ユニット 2 緑の革命とその後の稲作技術開発</td> <td>Unit 2 Green revolution and subsequent rice production technology development</td> </tr> <tr> <td>ユニット 3 天水農業とステークホルダー解析</td> <td>Unit 3 Rainfed agriculture and stakeholder analysis</td> </tr> <tr> <td>ユニット 4 気象変動とデルタ地域の稲作</td> <td>Unit 4 Climate change and delta rice production</td> </tr> <tr> <td>ユニット 5 作物のストレス耐性の改良</td> <td>Unit 5 Improvement of crop stress resistance</td> </tr> <tr> <td>ユニット 6 バイオテクノロジーと参加型開発</td> <td>Unit 6 Biotechnology and participatory development</td> </tr> <tr> <td>ユニット 7 科学者の役割と持続可能な開発</td> <td>Unit 7 Role of scientist in crop production and sustainable development</td> </tr> </table>			ユニット 1 持続可能な農業と稲生態系	Unit 1 Sustainable agriculture and rice ecosystem	ユニット 2 緑の革命とその後の稲作技術開発	Unit 2 Green revolution and subsequent rice production technology development	ユニット 3 天水農業とステークホルダー解析	Unit 3 Rainfed agriculture and stakeholder analysis	ユニット 4 気象変動とデルタ地域の稲作	Unit 4 Climate change and delta rice production	ユニット 5 作物のストレス耐性の改良	Unit 5 Improvement of crop stress resistance	ユニット 6 バイオテクノロジーと参加型開発	Unit 6 Biotechnology and participatory development	ユニット 7 科学者の役割と持続可能な開発	Unit 7 Role of scientist in crop production and sustainable development
ユニット 1 持続可能な農業と稲生態系	Unit 1 Sustainable agriculture and rice ecosystem																
ユニット 2 緑の革命とその後の稲作技術開発	Unit 2 Green revolution and subsequent rice production technology development																
ユニット 3 天水農業とステークホルダー解析	Unit 3 Rainfed agriculture and stakeholder analysis																
ユニット 4 気象変動とデルタ地域の稲作	Unit 4 Climate change and delta rice production																
ユニット 5 作物のストレス耐性の改良	Unit 5 Improvement of crop stress resistance																
ユニット 6 バイオテクノロジーと参加型開発	Unit 6 Biotechnology and participatory development																
ユニット 7 科学者の役割と持続可能な開発	Unit 7 Role of scientist in crop production and sustainable development																
履修上の注意 Notes on Taking the Course	<p>UT-mate にメールアドレスを登録し、7/31 までに akamoshita@anesc.u-tokyo.ac.jp へメールを送ること。第 1 回講義開始前に事前テストに回答すること。</p> <p>Register your mail address in UT-mate, and e-mail to akamoshita@anesc.u-tokyo.ac.jp by 7/31. Pre-test is to be answered before the first lecture.</p>																

詳しい情報はこちらで→



分野／自然環境論（農学生命科学研究科） Field : Natural Environment

単位／各 1 Credit : 1

連帯経済とソーシャル・ビジネス ～汎アジア経済論 V・VI～

科目番号 Course ID Number	3905525 (V) 3905526 (VI)	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	池本幸生（東洋文化研究所） Yukio Ikemoto (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	農学部 1 号館第 9 講義室 Room 9, Faculty of Agriculture, Bldg.1, Hongo Campus

授業時間
Semester/Time

S1, SP term 水 (Wed) 3 限 (13:00-14:45)

授業の目標・概要
Course Objectives/
Overview

より良い社会を築いていくために、われわれはもっと互いのことをよく知り、相手の立場も理解し、アダム・スミスのいう「公平な観察者」の立場に立って議論していかなければならない。このことをアマルティア・センは『正義のアイデア』の中で主張しているように思われる。このアイデアを生かすひとつの方法が連帯経済である。われわれの周りには、有機農業を始めとして、そのような連帯を生かした活動が様々な形で存在する。本講義では、グラミン銀行や有機農業などの事例を取り上げ、それが、経済学で想定するような利己的な個人からなる経済とどのように異なるかを考えていく。

In order to make our society better, we need to know more about each other and discuss with each other from the viewpoint of the impartial observer in the sense of Adam Smith. This seems to be the essence of Amartya Sen's book titled Idea of Justice. A way in this direction is the Solidarity Economy. In fact, there are many activities of this kind around us such as the movement of organic farming. We will take up some of the solidarity economies such as Grameen Bank, organic farming, etc. and discuss how they are different from the models of micro economics composed of selfish people.

詳しい情報はこちらで→



分野／自然環境論（農学生命科学研究科） Field : Natural Environment

単位／各 1 Credit : 1

アマルティア・センの正義論 ～汎アジア経済論 VII・VIII～

科目番号 Course ID Number	3905527 (VII) 3905528 (VIII)	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	池本幸生（東洋文化研究所） Yukio Ikemoto (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所三階第二会議室 Meeting Room 2, 3rd floor, Institute for advanced Studies on Asia, Hongo Campus

授業時間
Semester/Time

A1, A2 term 水 (Wed) 3 限 (13:00-14:45)

履修上の注意
Notes on Taking the Course

講義形式で解説していくので、特に正義論やセンのケイパビリティ・アプローチについての知識は前提としない。

授業の目標・概要
Course Objectives/
Overview

Amartya Sen, The Idea of Justice（アマルティア・セン『正義のアイデア』明石書店）を読んでいく。社会をもっと正義に適ったものに変えていくために、どのようにアプローチすべきかを考える。それは、「正義とは何か」を考えるような抽象的な議論ではなく、目の前にある問題を克服するために、どう進むべきかを考えるアプローチである。そのためには、人々の暮らしを直接捉えようとするケイパビリティという概念を用いること、それを用いてどう社会を変えていくかに合意するために民主的で理性的な討議を必要とすることをセンは主張する。

詳しい情報はこちらで→



緑地創成学特論

科目番号 Course ID Number	3911109	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	大黒俊哉（農学生命科学研究科） Toshiya Okuro (Agriculture)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	集中講義 intensive (S1)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	ランドスケープの保全・創出のための計画手法に関する最新の知見を習得する。講義では、戦略的環境アセスメントや生態系サービス評価に関する事例を紹介しつつ、持続的ランドスケープマネジメントのための統合的空間計画の理論と実践について議論する。		

詳しい情報はこちらで→



国際地域保健学特論 I

Special Lecture in Community Health I

科目番号 Course ID Number	41622121	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	神馬征峰（医学系研究科） Masamine Jimba (Medicine)	場 所 Venue	医学部 3 号館 S101（変更の可能性あり） Medical Bilding 3, S101 (Subject to change)
授業時間 Semester/Time	S1 term 金 (Fri) 3-4 限 (13:00-14:45, 14:55-16:40)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>本特論では、参加者はコミュニティに着目したグローバルヘルスの基礎となる重要な概念を理解した後に、研究および実践における方法論について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> Key concepts of community health action <ol style="list-style-type: none"> Health, community, and global health Community development and sustainability Primary health care Health promotion Positive deviance approach Health education and behavioral change Community health workers Human rights Tools for community health action and research <ol style="list-style-type: none"> Field work skill development Qualitative research methods Community health assessment Hard-to-reach population research methods Program and project management and evaluation Medical anthropology Current topics in community and global health <ol style="list-style-type: none"> Gender and health 		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	<p>授業開始日は4月15日（金）、最終日は6月10日（金）となる。 受講希望者は事前に名西助教 keiko50@m.u-tokyo.ac.jp へ連絡して下さい。</p>		

詳しい情報はこちらで→



分野／健康論（医学系研究科） Field : Health Sciences

単位／2 Credit : 2

精神保健学 I

Mental Health I

科目番号 Course ID Number	41618211	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	川上憲人（医）、島津明人（医） Norito Kawakami (Medicine), Akihito Shimazu (Medicine)	場 所 Venue	医学部・教育研究棟 13 階公共健康医学専攻講義室 Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester 火（Tue）5 限（16:50-18:35）	履修上の注意 Notes on Taking the Course	初回は 4 月 5 日。最終日である 7 月 19 日は 5, 6 限（16:50-20:30）で行う。

授業の目標・概要
Course Objectives/Overview

精神保健の疫学を理解し、効果的な第一次、第二次、第三次予防対策を立案することができるようになるために、精神保健疫学の基礎および精神保健対策の科学的根拠を学ぶと同時に、事例研究（ケーススタディ）を通じて基礎的かつ実践的な能力を身につけることを目的とする。

- 4 月 5 日 オリエンテーション、総論
- 4 月 19 日 精神疾患とはどんな病気か
- 4 月 26 日 精神健康を測定する
- 5 月 10 日 精神健康のスクリーニングは有効か
- 5 月 17 日 精神疾患は予防できるか
- 5 月 24 日 精神医療サービスの課題
- 5 月 31 日 薬物使用は犯罪か病気か
- 6 月 7 日 休講
- 6 月 14 日 課題発表会 1：精神保健対策の科学的根拠
- 6 月 21 日 トピックス①：自殺予防対策をどう評価するか
- 6 月 28 日 トピックス②：精神保健行政の現状と課題
- 7 月 5 日 トピックス③：災害時の精神保健
- 7 月 12 日 休講
- 7 月 19 日 課題発表会 2：精神保健の対策を立案する（5, 6 限）

詳しい情報はこちらで→



分野／健康論（医学系研究科） Field : Health Sciences

単位／2 Credit : 2

精神保健学 II

Mental Health II

科目番号 Course ID Number	41618212	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	島津明人（医）、川上憲人（医）、非常勤講師 Akihito Shimazu (Medicine), Norito Kawakami (Medicine)	場 所 Venue	医学部・教育研究棟 13 階公共健康医学専攻講義室 Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A semester, 火（Tue）5 限（16:50-18:35）	履修上の注意 Notes on Taking the Course	「精神保健学 I」を受講していることが望ましい。

授業の目標・概要
Course Objectives/Overview

職場のメンタルヘルスの専門職として必要とされる知識・技術を、講義および事例研究とその後の討論によって習得することを目的とする。具体的には、制度・法規、利用者の状態および特性を踏まえた対応、関連職種間の連携、近年の社会経済情勢を踏まえた対策について学び、具体的な対策を現場で進めることのできる能力を養成する。

- 10 月 4 日 コース概要、産業精神保健総論
- 10 月 11 日 メンタル不調者対応の基本的な枠組み・専門職が留意すべきこと
- 10 月 18 日 産業保健マネジメントの中でのメンタルヘルス対策
- 10 月 25 日 外部 EAP によるメンタルヘルス支援
- 11 月 1 日 職場のいじめとメンタルヘルス
- 11 月 8 日 組織・個人の活性化とポジティブメンタルヘルス
- 11 月 15 日 経営と産業保健は協調できるか？
- 11 月 22 日 腰痛とメンタルヘルス
- 11 月 29 日 ワーク・ライフ・バランスとメンタルヘルス
- 12 月 6 日 労働者の復職支援プログラム
- 12 月 13 日 中小規模事業所のメンタルヘルス対策
- 12 月 20 日 人事からみたメンタルヘルス対策
- 1 月 10 日 海外勤務者のメンタルヘルス支援
- 1 月 17 日 これからの職場のメンタルヘルス

詳しい情報はこちらで→



医療コミュニケーション学講義

Health Communication Lecture

科目番号 Course ID Number	41618120	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	木内貴弘（医）、石川ひろの（医） Takahiro Kiuchi (Medicine), Hirono Ishikawa (Medicine)	場 所 Venue	医学部・教育研究棟 13 階公共健康医学専攻講義室 Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S1 term 火 (Tue) 3-4 限 (13:00-14:45, 14:55-16:40)	履修上の注意 Notes on Taking the Course	「医療コミュニケーション学演習」の前に受講していることが望ましい。
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>本講義の目的は、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の理論と実践を体系的に学習することにある。医療コミュニケーション学（ヘルスコミュニケーション学）とは、医療・公衆衛生分野を対象としたコミュニケーション学であり、医療従事者間、医療従事者と患者市民間、患者市民間等における健康や医療に関連した知識や情報などのコミュニケーションを対象とする。医療コミュニケーションは、医学・医療と社会のインターフェイスとして、パブリックヘルス分野において、非常に重要な意味を持っている。従来、ヒト対ヒトのいわゆるヒューマンコミュニケーションを主体に考えられてきたが、現在では、これに加えて、インターネット、マスメディア、コンピュータ・ゲーム機等を介したコミュニケーションの意義・役割も増大している。本講義では、保健医療・公衆衛生分野における専門職として効果的なコミュニケーションを実践するために必要な、(1) コミュニケーションの理論体系、(2) コミュニケーションの具体的な方略やスキル、(3) コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱う。本講義の受講によって、医療コミュニケーションを実践し、改善していくために必要な基礎的な知識を得ることができる。</p> <p>4月 5日 3限 医療コミュニケーション学概論（木内貴弘） 4月 5日 4限 コミュニケーション教育（北村聖 [医学教育国際研究センター]） 4月 19日 3限 ヘルス・コミュニケーションの方略①（石川雄一 [日本ヘルスサイエンスセンター]） 4月 19日 4限 ヘルス・コミュニケーションの方略②（石川善樹 [株式会社キャンサーズキャン]） 4月 26日 3限 患者・市民の視点（山口育子 [COML]） 4月 26日 4限 グループ・組織のコミュニケーション（石川ひろの） 5月 10日 3限 メディア・コミュニケーション①（市川衛 [NHK]） 5月 10日 4限 メディア・コミュニケーション②（本田麻由美 [読売新聞]） 5月 17日 3限 ヘルス・コミュニケーションの方略③（奥原剛） 5月 17日 4限 コミュニケーション研究（石川ひろの） 5月 24日 3限 ヘルス・コミュニケーションの方略④（加藤美生） 5月 24日 4限 政策形成とアドボカシーのコミュニケーション（田口空一郎 [医療の質に関する研究会]） 5月 31日 3限 メディア・コミュニケーション③（中山和弘 [聖路加国際大学]） 5月 31日 4限 まとめ（石川ひろの）</p>		

詳しい情報はこちらで→



医療コミュニケーション学演習

Health Communication Practice Training

科目番号 Course ID Number	41618122	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	木内貴弘（医）、石川ひろの（医）、岡田昌史（医） Takahiro Kiuchi (Medicine), Hirono Ishikawa (Medicine), Masafumi Okada (Medicine)	場 所 Venue	医学部・教育研究棟 13 階公共健康医学専攻講義室 Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S2 term 水 (Wed) 3-4 限 (13:00-14:45, 14:55-16:40)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>効果的な医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）を行うために必要なスキルを、対人コミュニケーション、メディアを通じたコミュニケーションなど、それぞれ具体的に引き上げ、演習を行うことによって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ理論や方略に対する理解を深めるとともに、具体的な医療コミュニケーションの場（医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等）でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。</p> <p>6月 8日 インターネットによる情報発信（木内貴弘、石川ひろの、岡田昌史） 6月 15日 自分を知る・相手を知る（園田由紀 [日本 MBTI 協会]） 6月 22日 自分を知る・相手を知る（園田由紀） 6月 29日 自分を知る・相手を知る（園田由紀） 7月 6日 メディア報道のあり方を考える（渡邊清高 [帝京大学]） 7月 13日 行動変容を支援するスキル（田口智博 [三重大学]） 7月 20日 対人コミュニケーションの基礎（佐藤優子 [東京歯科大学]） 7月 27日 インターネットによる情報発信（木内貴弘、石川ひろの、岡田昌史）</p>		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	初回は6月8日(水)。初回と最終回はノートパソコンを持参のこと。演習への参加(50%)、演習内でのプレゼンテーション(20%)、作成した資料・レポート(30%)によって評価する。演習への参加が前提となるため、やむを得ず欠席する場合には、事前に事情を届け出ること。		

詳しい情報はこちらで→



分野／健康論（医学系研究科） Field : Health Sciences

単位／2 Credit : 2

人類生態学特論 I

Human Ecology I

科目番号 Course ID Number	41622231	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	渡辺知保（医）、梅崎昌裕（医） Chiho Watanabe (International Health), Masahiro Umezaki (International Health)	場 所 Venue	医学部 3 号館別棟 6 階 S604 Medical Building 3 Annex, S604
授業時間 Semester/Time	S1 term 金 (Fri) 1-2 限 (8:30-10:15, 10:25-12:10)	履修上の注意 Notes on Taking the Course	開始日は 4 月 8 日（金）。 Starting Date: April 8th (Fri).
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	Human Ecology is a field, which tries to elucidate the interrelation between human population and its surrounding environment and is expected to provide basic knowledge to solve contemporary issues regarding environment, food, and population. Utilizing the conventional approaches including demography, nutritional science, environmental studies, and ecology, human ecology tries to clarify the mechanism of adaptation, with which human population modifies the environment, and in turn the modified environment will give impacts on the human population.		

Student who is interested in the issues of urbanization, expansion of population, deterioration of environment, improvement in public health observed in developing countries - Asia and Oceania regions in particular - will be given a good opportunity to understand the underlying mechanism of these issues by learning and discussing the nature of human populations in the context of ecology.

詳しい情報はこちらで→



分野／健康論（医学系研究科） Field : Health Sciences

単位／2 Credit : 2

健康教育学

Health Education

科目番号 Course ID Number	41318213	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	橋本英樹（医） Hideki Hashimoto (Medicine)	場 所 Venue	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻（SPH）講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A2 term 金 (Fri) 1-2 限 (8:30-10:15, 10:25-12:10)	講 師 陣 Lecturers	橋本英樹、岩永俊博（ヘルスプロモーション研究センター）、坂野純子（岡山県立大学）、戸津崎貴文（みずほ銀行）、馬場優子（足立区健康づくり課）
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	生活習慣・健康行動変容に関する理論を講義でまず鳥瞰した後、各理論のフレームを用いて実践的プログラム立案を行う上での長所・短所・限界点をクラス内ディスカッション・レポートで深める。		

- 11 月 25 日 1 限 Micro-meso level of behavioral theories（橋本）
- 11 月 25 日 2 限 Population level of behavioral theories（橋本）
- 12 月 2 日 1 限 Health literacy and communication（橋本）
- 12 月 2 日 2 限 Decision agency and public health ethics（橋本）
- 12 月 9 日 1 限 Empowerment approach in community I（岩永）
- 12 月 9 日 2 限 Empowerment approach in community II（岩永）
- 12 月 16 日 1 限 Health marketing in workplace I（戸津崎）
- 12 月 16 日 2 限 Health marketing in workplace II（戸津崎）
- 1 月 13 日 1 限 Public intervention for community health I（馬場）
- 1 月 13 日 2 限 Public intervention for community health II（馬場）
- 1 月 20 日 1 限 Welfare and wellbeing（坂野）
- 1 月 20 日 2 限 Salutogenesis and empowerment（坂野）
- 1 月 27 日 1 限 wrap-up discussion

詳しい情報はこちらで→



健康社会学

科目番号 Course ID Number	41318214	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	橋本英樹（医） Hideki Hashimoto (Medicine)	場 所 Venue	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻（SPH）講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A1 term 金（Fri） 1-2 限（8:30-10:15, 10:25-12:10）	講 師 陣 Lecturers	橋本英樹、杉澤秀博（桜美林大学）、朝倉隆司（学芸大学）、中山和弘（聖路加看護大学）
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>社会学を基本軸として、健康を社会的文脈で考察する知的基盤を提供する。具体的には社会学理論を鳥瞰したうえで、健康科学との接点として医療・医師・社会的健康決定要因などを題材として取り扱う。</p> <p>9月30日 1限 Perspective of sociology 9月30日 2限 Perspective of "Health/medical sociology" 10月7日 1限 Medicine as social system 10月7日 2限 Medicine as power politics 10月14日 1限 The social world of doctor 10月14日 2限 The social world of patient 10月21日 1限 Social stratification and health（橋本） 10月21日 2限 Social support/network and health（杉澤） 10月28日 公衆衛生学会のため休講 11月4日 1限 Alternative and holistic medicine（中山） 11月4日 2限 Health sociology in school（朝倉） 11月11日 1限 Lay epidemiology, illness behavior, and sociology of health promotion（橋本） 11月11日 2限 Sociology of body and emotion（橋本） 11月18日 1限 wrap up（2限は予備）</p>		

詳しい情報はこちらで→



Information, Technology, and Society in Asia 101:

Introduction to Asian Studies: History and International Relations

科目番号 Course ID Number	4971010	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	松田康博（東洋文化研究所） Yasuhiro Matsuda (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所三階大会議室 Main Meeting Room, 3rd floor, Institute for advanced Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A1 term 火・金（Tue & Fri）5 限（16:50-18:35）		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>詳細は UT-mate および ASNET ウェブページをご覧ください。 Please check UT-mate or ASNET webpage for detail.(http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8087)</p>		

詳しい情報はこちらで→



Information, Technology, and Society in Asia 128:

Surviving Cancer in Asia

科目番号 Course ID Number	4971280	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	赤座英之（情報学環）、河原ノリエ（情報学環） Hideyuki Akaza (Interfaculty Initiative in Information Studies) Norie Kawahara (Interfaculty Initiative in Information Studies)	場 所 Venue	医学部教育新棟 第1セミナー室 Seminar Room 1, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A semester 月（Mon）4 限（14:55-16:40）		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>This lecture series will be held in an omnibus style, with external lecturers being invited to talk about cancer in Asia from their various expert perspectives. The lecturers will delve into issues such as the characteristics of cancer in Asia and the various approaches for regional cooperation that will help to overcome it, examining the current status in the Asian region and the various challenges that are currently being faced.</p>		

詳細は UT-mate および ASNET ウェブページをご覧ください。

Please check UT-mate or ASNET webpage for detail.(<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8089>)

詳しい情報はこちらで→



分野／情報論 (学際情報学府) Field : Information Theory

単位 / 2 Credit : 2

Information, Technology, and Society in Asia 124:
International Conflict Study

科目番号 Course ID Number	4971240	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	藤原 昇一 (法学政治学研究科) Kiichi Fujiwara (Graduate Schools for Law and Politics)	場 所 Venue	法文 1 号館第 26 番教室 Room 26, Faculty of Law and Letters Bldg.1, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester 水 (Wed) 4限 (14:55-16:40)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	詳細は UT-mate および ASNET ウェブページをご覧ください。 Please check UT-mate or ASNET webpage for detail. (http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8088)		

詳しい情報はこちらで→



分野／情報論 (学際情報学府) Field : Information Theory

単位 / 2 Credit : 2

Information, Technology, and Society in Asia 131:
Modern Japanese Diplomacy

科目番号 Course ID Number	4971310	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	小原 雅博 (法学政治学研究科) Masahiro Kohara (Graduate Schools for Law and Politics)	場 所 Venue	法文 1 号館 第 26 番教室 Room 26, Faculty of Law and Letters Bldg.1, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	S semester 金 (Fri) 4限 (14:55-16:40)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	詳細は UT-mate および ASNET ウェブページをご覧ください。 Please check UT-mate or ASNET webpage for detail. (http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8090)		

詳しい情報はこちらで→



分野／情報論 (学際情報学府) Field : Information Theory

単位 / 4 Credit : 4

Information, Technology, and Society in Asia 133:
Japanese Foreign Economic Policy

科目番号 Course ID Number	4971330	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	飯田 敬輔 (法学政治学研究科) Keisuke Iida (Graduate Schools for Law and Politics)	場 所 Venue	法文 1 号館 B1 演習室 Seminar Room B1, Faculty of Law and Letters Bldg.1, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A semester 火・金 (Tue & Fri) 4, 5 限 (14:55-16:40, 16:50-18:35)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	詳細は UT-mate および ASNET ウェブページをご覧ください。 Please check UT-mate or ASNET webpage for detail. (http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8091)		

詳しい情報はこちらで→





分野／情報論（学際情報学府） Field : Information Theory

単位／2 Credit : 2

Information, Technology, and Society in Asia 129:

Japan in Hong Kong

科目番号 Course ID Number	4971290	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	園田茂人（情報学環） Shigeto Sonoda (Interfaculty Initiative in Information Studies)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	集中講義 intensive (S semester)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	詳細は UT-mate および ASNET ウェブページをご覧ください。 Please check UT-mate or ASNET webpage for detail. (http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8092)		

詳しい情報はこちらで→



分野／情報論（学際情報学府） Field : Information Theory

単位／2 Credit : 2

Information, Technology, and Society in Asia 144:

Understanding Japanese Company in China

科目番号 Course ID Number	4971440	使用言語 Language	英語 English
担当教員 Teacher	園田茂人（情報学環） Shigeto Sonoda (Interfaculty Initiative in Information Studies)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	集中講義 intensive (A1 term)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	詳細は UT-mate および ASNET ウェブページをご覧ください。 Please check UT-mate or ASNET webpage for detail. (http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8093)		

詳しい情報はこちらで→



分野／情報論（学際情報学府） Field : Information Theory

単位／2 Credit : 2

文化・人間情報学特論 I

Special Seminars in Cultural and Human Information I

科目番号 Course ID Number	4917030	使用言語 Language	日本語 Japanese
担当教員 Teacher	真鍋祐子（東洋文化研究所） Yuko Manabe (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	情報学環本館 7階第一演習室 Seminar Room 1, 7 floor, Interfaculty in Information Studies Bldg. Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	A semester 月 (Mon) 3限 (13:00-14:45)		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	詳細は UT-mate および ASNET ウェブページ (http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/8094) をご覧ください。		

詳しい情報はこちらで→



分野／特論 Field : Advanced Studies

単位／2 Credit : 2

中国経済 ～東アジア産業論～

科目番号 Course ID Number	291318-02	使用言語 Language	日本語、英語 Japanese, English
担当教員 Teacher	丸川知雄 (社会科学研究所)・伊藤亜聖 (社会科学研究所) Tomoo Marukawa (ISS), Asei Ito (ISS)	場 所 Venue	TBA
授業時間 Semester/Time	A semester 他 TBA		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	この授業では東アジアの産業に関する実証的分析方法を学ぶことを目的とする。中国、韓国、台湾、日本の製造業や第3次産業に関する実証分析を輪読しながら東アジアの産業の実態と分析手法を学んでいく。 The purpose of this course is to learn empirical methods of analyzing East Asian industries. Through reading empirical studies on manufacturing and service industries of China, Korea, Taiwan, South East Asia, and Japan, we will learn the realities of East Asian industries and grasp the skills to analyze them.		
履修上の注意 Notes on Taking the Course	使用言語は日本語もしくは英語とする。どちらかを用いるかは参加者の状況を見て決める。 The language used in class will either be English or Japanese, depending on the participants' language abilities.		

詳しい情報はこちらで➡



注意①：正規課程とプログラム履修の関係について

NOTE 1 : Standard curriculum and taking part in the program

本プログラムの修了は正規課程の修了とは独立に認定します。したがって、本プログラムにおいて「他研究科（教育部）履修」、「学部科目履修」として取得した単位を、所属する研究科・教育部が正規課程の単位としてどのように取り扱うかは、当該研究科・教育部が決定します。

Recognition of completion of the program is independent of that for completion of the standard curriculum. Therefore, decisions regarding treatment as credit of units gained in this program from "Other graduate school (educational department) enrolment" or "Undergraduate course enrolment" vis-a-vis the standard curriculum of the graduate school or faculty to which the student belongs shall be determined by that graduate school or faculty.

注意②：修士課程から博士課程に進学した時の扱い

NOTE 2 : Treatment of credits when moving from a master's to a doctoral program

修士課程または博士課程在学中に12単位を修得した場合だけでなく、東京大学の修士課程から博士課程へ進学した学生は、両課程を通して12単位を取得することで修了と認定されます。ただし、東京大学の学部において言語科目群に該当する単位を取得して、大学院に進学した場合においては、学部在籍中に取得した単位を本プログラムの単位とみなすことは出来ません。

For students who gained 12 credits during the term of a master's or doctoral program, or for students at the University of Tokyo who have moved from a master's to a doctoral program, recognition of completion shall be given for 12 credits gained during both courses. However, for students who gained credits for language-related courses at a University of Tokyo undergraduate faculty and moved on to the graduate level, the credits gained by such students while enrolled in that department may not be used as credits in this program.

注意③：平成18年度～20年度の「日本・アジア学講座」との関係

NOTE 3 : Regarding 2006 ~ 2008 Lectures on Japan-Asian Studies

平成18年度～20年度の期間に「日本・アジア学講座」として開講された科目のうち、作業委員会が特別に認めた場合には修了要件の単位とすることができます。

If the Managing Committee gives special permission, credits gained from those subjects taught during the Japan-Asian Studies Lectures held between 2006 and 2008 may be counted as credits.

言語科目群

Asian Language Courses

事前に必ず、履修に当たっての注意（履修者の制限など）を、ウェブサイトならびに UT-mate 上で確認してください。
 どちらのキャンパス（本郷・駒場）の科目でも履修可能ですが、学部学生の履修状況によっては、受講できない場合もあります。

For detailed information in English, please visit the website.

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

本郷キャンパス【文学部開講科目】

Hongo Campus (Faculty of Letters)

科目名	科目番号	担当教員	学期	単位	科目名	科目番号	担当教員	学期	単位
中国語前期 (1)	04166401	邵 迎建	S1+S2	2	韓国朝鮮語中級	04166440	五十嵐 孔一	S1+S2	2
中国語前期 (2)	04166402	邵 迎建	A1+A2	2	アラビア語 (1)	04166441	榮谷 温子	S1+S2	2
中国語後期 (1)	04166403	邵 迎建	S1+S2	2	アラビア語 (2)	04166442	榮谷 温子	A1+A2	2
中国語後期 (2)	04166404	邵 迎建	A1+A2	2	ペルシア語 (1)	04166443	渡部 良子	S1+S2	2
ヒンディー語 (1)	04166436	町田 和彦	S1+S2	2	ペルシア語 (2)	04166444	渡部 良子	A1+A2	2
ヒンディー語 (2)	04166437	町田 和彦	A1+A2	2	チベット語	04166451	星 泉	S1+S2	2
韓国朝鮮語初級 (1)	04166438	五十嵐 孔一	S1+S2	2	チベット語	04166452	福田 洋一	A1+A2	2
韓国朝鮮語初級 (2)	04166439	五十嵐 孔一	A1+A2	2					

駒場キャンパス【教養学部開講科目】

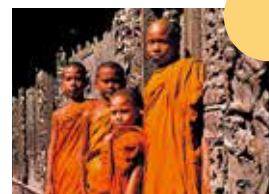
Komaba Campus (College of Arts and Sciences)

科目名	科目番号	担当教員	学期	単位	科目名	科目番号	担当教員	学期	単位
共通中国語 (1) (中級講読)	08A4001	秋山 珠子	S1S2	2	共通中国語 (53) (TLP 上級会話)	08A4053	藤原 優美	S1S2	2
共通中国語 (2) (中級講読)	08A4002	秋山 珠子	A1A2	2	共通中国語 (54) (TLP 上級会話)	08A4054	藤原 優美	A1A2	2
共通中国語 (3) (中級会話)	08A4003	劉 岸麗	S1S2	2	共通中国語 (55) (TLP 上級講読)	08A4055	菊池 真純	S1S2	2
共通中国語 (4) (中級会話)	08A4004	劉 岸麗	A1A2	2	共通中国語 (56) (TLP 上級講読)	08A4056	菊池 真純	A1A2	2
共通中国語 (5) (中級会話)	08A4005	賈 黎黎	A1A2	2	共通中国語 (57) (上級)	08A4057	刈間 文俊	A1	2
共通中国語 (6) (中級会話)	08A4006	林 立梅	A1A2	2	共通韓国朝鮮語 (1)	08A8001	金 亨貞	S1S2	2
共通中国語 (7) (中級作文)	08A4007	柴 森	S1S2	2	共通韓国朝鮮語 (2)	08A8002	金 亨貞	A1A2	2
共通中国語 (8) (中級作文)	08A4008	柴 森	A1A2	2	共通韓国朝鮮語 (3)	08A8003	金 亨貞	S1S2	2
共通中国語 (9) (中級講読)	08A4009	代田 智明	S1S2	2	共通韓国朝鮮語 (4)	08A8004	月脚 達彦	A1A2	2
共通中国語 (10) (中級講読)	08A4010	石井 剛	A1A2	2	共通韓国朝鮮語 (5)	08A8005	張 銀英	S1S2	2
共通中国語 (11) (上級会話)	08A4011	賈 黎黎	S1S2	2	共通韓国朝鮮語 (6)	08A8006	張 銀英	A1A2	2
共通中国語 (12) (上級会話)	08A4012	賈 黎黎	A1A2	2	共通韓国朝鮮語 (7)	08A8007	橋本 繁	S1S2	2
共通中国語 (13) (上級作文)	08A4013	李 佳リョウ	S1S2	2	共通韓国朝鮮語 (8)	08A8008	橋本 繁	A1A2	2
共通中国語 (14) (上級作文)	08A4014	李 佳リョウ	A1A2	2	共通韓国朝鮮語 (21) (初級)	08A8021	張 銀英	S1S2	2
共通中国語 (15) (中級講読)	08A4015	阿古 智子	S1S2	2	共通韓国朝鮮語 (22) (初級)	08A8022	張 銀英	A1A2	2
共通中国語 (16) (中級文法)	08A4016	小野 秀樹	A1A2	2	共通アラビア語 (1)	08A9001	濱田 聖子	S1S2	2
共通中国語 (17) (上級講読)	08A4017	伊藤 徳也	S1S2	2	共通アラビア語 (2)	08A9002	濱田 聖子	A1A2	2
共通中国語 (18) (上級講読)	08A4018	伊藤 徳也	A1A2	2	共通アラビア語 (3)	08A9003	杉田 英明	S1S2	2
共通中国語 (49) (初級)	08A4049	張 玉萍	S1S2	2	共通アラビア語 (4)	08A9004	オダイマ ムハンマド	A1A2	2
共通中国語 (50) (初級)	08A4050	張 玉萍	A1A2	2	共通アラビア語 (5)	08A9005	菊谷 康太	S1S2	2
共通中国語 (51) (TLP 上級作文)	08A4051	王 前	S1S2	2	共通アラビア語 (7)	08A9007	杉田 英明	S1S2	2
共通中国語 (52) (TLP 上級作文)	08A4052	王 前	A1A2	2	共通アラビア語 (8)	08A9008	杉田 英明	A1A2	2

科目名	科目番号	担当教員	学期	単位	科目名	科目番号	担当教員	学期	単位
共通アラビア語 (9)	08A9009	オダイマ ムハンマド	S1S2	2	上海語 (1)	08A9453	周 剛	S1S2	2
共通アラビア語 (10)	08A9010	杉田 英明	A1A2	2	上海語 (2)	08A9454	周 剛	A1A2	2
共通ヒンディー語 (1)	08A9101	藤井 毅	S1S2	2	台湾語 (1)	08A9457	王 嵐	S1S2	2
共通ヒンディー語 (2)	08A9102	藤井 毅	A1A2	2	台湾語 (2)	08A9458	王 嵐	A1A2	2
共通ヒンディー語 (3)	08A9103	藤井 毅	S1S2	2	タイ語 (1)	08A9461	浅見 靖仁	S1S2	2
共通ヒンディー語 (4)	08A9104	藤井 毅	A1A2	2	タイ語 (2)	08A9462	浅見 靖仁	A1A2	2
ベトナム語 (1)	08A9425	加藤 栄	S1S2	2	タイ語 (3)	08A9463	浅見 靖仁	S1S2	2
ベトナム語 (2)	08A9426	加藤 栄	A1A2	2	モンゴル語 (1)	08A9465	荒井 幸康	S1S2	2
ベトナム語 (3)	08A9427	岩月 純一	S1S2	2	モンゴル語 (2)	08A9466	荒井 幸康	A1A2	2
ベトナム語 (4)	08A9428	岩月 純一	A1A2	2	ペルシャ語 (1)	08A9469	前田 君江	S1S2	2
ベトナム語 (7)	08A9431	岩月 純一	S1S2	2	ペルシャ語 (2)	08A9470	前田 君江	A1A2	2
トルコ語 (1)	08A9433	高松 洋一	S1S2	2	ヘブライ語 (1) -1	08A94731	飯郷 友康	S1S2	2
トルコ語 (2)	08A9434	高松 洋一	A1A2	2	ヘブライ語 (1) -2	08A94732	飯郷 友康	S1S2	2
トルコ語 (3)	08A9435	高松 洋一	S1S2	2	ヘブライ語 (2)	08A9474	飯郷 友康	A1A2	2
トルコ語 (4)	08A9436	高松 洋一	A1A2	2	サンスクリット語 (1)	08A9477	梶原 三恵子	S1S2	2
広東語 (1) (中級)	08A9441	谷垣 真理子	S1S2	2	サンスクリット語 (2)	08A9478	高橋 晃一	A1A2	2
広東語 (2)	08A9442	谷垣 真理子	A1A2	2	サンスクリット語 (3)	08A9479	梶原 三恵子	S1S2	2
広東語 (3)	08A9443	倉田 明子	S1S2	2	シリア語 (2)	08A9482	高橋 英海	A1A2	2
広東語 (4) (中級)	08A9444	郭 文ホウ	A1A2	2	専門中国語 (2)	08B4002	小野 秀樹	S1S2	2
インドネシア語 (1) -1	08A94451	高地 薫	S1S2	2	専門中国語 (3)	08B4003	楊 凱栄	A1A2	2
インドネシア語 (1) -2	08A94452	高地 薫	S1S2	2	専門中国語 (4)	08B4004	川島 真	A1A2	2
インドネシア語 (2)	08A9446	高地 薫	A1A2	2	専門韓国朝鮮語 (4)	08B8004	長澤 裕子	S1S2	2
インドネシア語 (3)	08A9447	高地 薫	S1S2	2	専門韓国朝鮮語 (5)	08B8005	生越 直樹	A1A2	2
インドネシア語 (4)	08A9448	高地 薫	A1A2	2	専門アラビア語 (2)	08B9002	杉田 英明	S1S2	2



Human



Nature



History



Society



日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

- 学生のアジア理解を深める「日本・アジア学」教育プログラム(研究科等横断)
- ウェブサイト、メールマガジン、メーリングリストを通じた情報・意見交換
- 研究者の国際交流・分野間交流の促進

ASNETではアジアに関する情報を掲載したメールマガジンを発行しています。

どなたでも、無料で受信することができます。

ウェブサイトから受信登録をするか、事務局までメールで受信希望のメールをお寄せください。

Network for Education and Research on Asia is a virtual network for the education/studies on Asia.

The network issues an e-newsletter for exchange of information on Asia. Subscription is free.

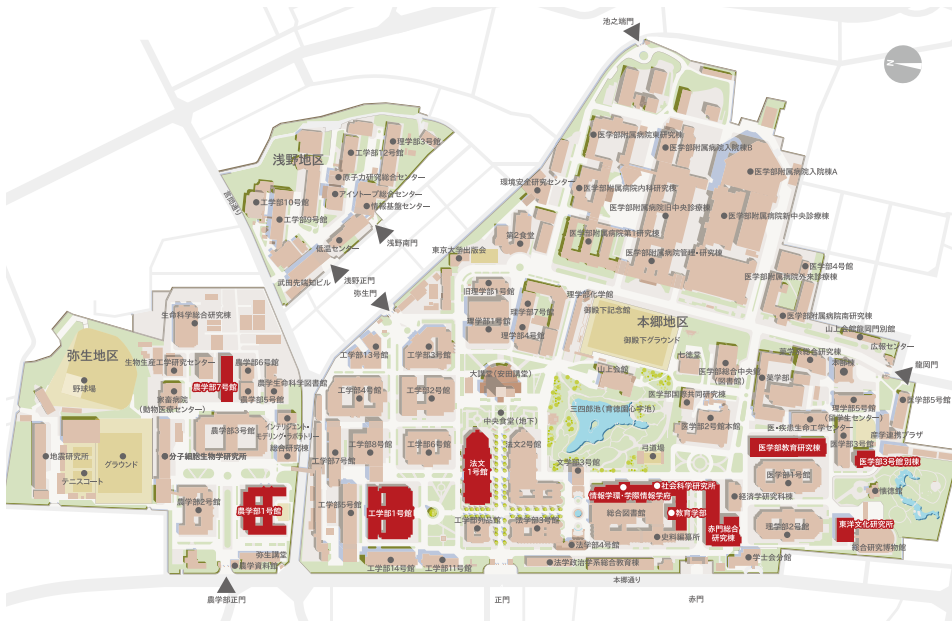
Please register at the website or contact the network office by e-mail for the subscription.

URL : <http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

E-mail : asnet@asnet.u-tokyo.ac.jp

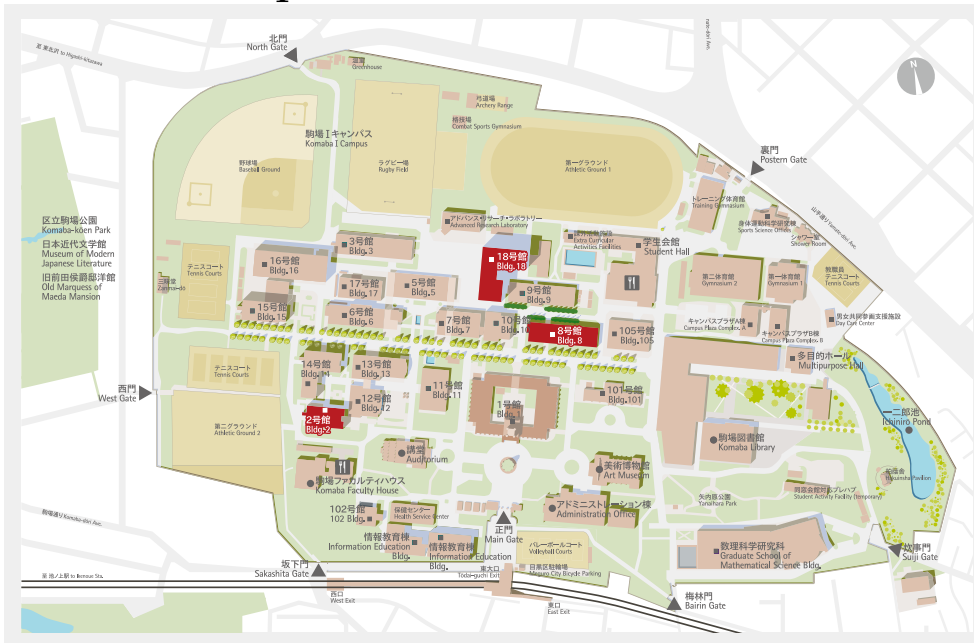
Hongo Campus

本郷キャンパス



Komaba Campus

駒場キャンパス



連絡先・お問い合わせ先

Contact and Inquiries

東京大学 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

Network for Education and Research on Asia

電 話 / Tel	03-5841-5868
内 線 / Ext	25868
メ ー ル / E-mail	asnet@asnet.u-tokyo.ac.jp
インターネット / URL	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/